

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	南九州市茶業振興会
役職	
氏名	窪 拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和4年12月(着任1年11ヶ月)
主な活動	1. よかど鹿児島にて、南九州市・知覧茶フェア開催！ 2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談 3. 地域を超えた情報交流への注力、その他

1. よかど鹿児島にて、南九州市・知覧茶フェア開催！



写真：南九州市・知覧茶フェア会場にて

一年を締めくくる最後の月12/8~12/9、鹿児島市にある鹿児島銀行本店「よかど鹿児島」1Fフロアにて、南九州市・知覧茶フェアを開催しました。
当フェアの企画から実施をするにあたり、知覧茶業関係者だけでなく南九州市でつくられる野菜生産者や、知覧茶とのフードペアリングの関係でも注目の高いお菓子の製造をされているお店へ募集をかけ、2日間で年末商戦での良い成果を残せたと感じています。

地域おこし協力隊活動報告書



写真:フェア会場風景 / ご来場プレゼント「Leaf Tea Cup」

ご年配の方々を中心に、お仕事のランチ休憩中の会社員の方、また就業時間後に足を運んでいただいた方など、多くの方々へ当市の魅力をお伝えできたのではと思います。会場では、写真にある通り巨大スクリーンに当市のPR動画が終日映し出され、会場にあるテーブルに腰掛け知覧茶やお菓子などをお楽しみいただきながら見入っているおられる方も多く見受けられました。

フェア当日は、常にレジに列をつくるほどの時間 / ゆっくりと商品や当市のお話しができる時間ははっきりとしており、各ブース間でフォローをしあいながら連携をとれており、気持ちの良い空間作りに手応えを感じました。

一時期のピークは超えたとはいえ、今もなおコロナ禍でのPR活動は簡単にいかないのは事実ではあります。しかし、「対策を徹底している＝何もしないこと」には決してなりません。ここ数年の落ち込みを全て環境のせいにし、あぐらをかき補助金を待っているだけの茶生産者/生産エリア、また全国の自治体は、大変残念なことに見事なまでに勢いをなくしています。

今回の催事に限らず、腐れずひたむきに販路拡大や消費を促す働きをかける生産者 / 団体が今後も増えていくことを願っております。

2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談



写真: JR指宿駅行内にて、いぶたま電車おもてなし

地域おこし協力隊活動報告書

当月下旬、指宿商業のICP(茶いっぺプロジェクト)生徒の方々、先生といぶたま電車で指宿駅にご到着された旅行者、またはこれから鹿児島中央駅方面へ帰られる旅行者へのおもてなし活動を実施しました。

ICPのメンバーは、卒業を数ヶ月後に控えた高校3年生で構成されています。

間もなく新社会人になるメンバー、希望に満ちた大学生活を送る予定のメンバーなど、これからの環境はそれぞれ今とは大きく変化していくことだと思います。

高校を卒業後、ふと落ち着いて物事を見ることができるようになった時、生まれ育ち青春を過ごした地を誇ることができる文化や郷土料理を、今おもてなしとして観光客へPRしているのかなと思うと、非常に感慨深い感情が込み上げてきました。

同時に、純粋な心でPRの言葉を伝えている姿や行動に、自分を含め茶業関係各所の方々がもう一度茶に対する姿勢を見直す良いモデルではないだろうかと感じ、大変勉強になったところです。



写真: 海外からの旅行者にも知覧茶を / 最後はみんなでいぶたま電車お見送り

今では当市とお隣の市になってはおりますが、時代が違えば同エリアとして盛り上げてきた指宿市との取組は、今後も積極的に進めていきたいと強く考えております。

そして、広くは南薩を盛り上げる火種の一つとして育てていきたいと思っています。

3. 地域を超えた情報交流への注力、その他



写真: 曾於市末吉町「末吉製茶」訪問にて / 茶販売の研修

<https://www.sueyoshiseichakobo.co.jp>



南九州市
Minamikyushu City

地域おこし協力隊活動報告書

当月中旬、颯娃茶業女性部研修に同行させていただき、大隅半島の茶産地末吉町で生産から小売までを手がけている「末吉製茶」にて、現状抱えている課題、新たな商流や顧客づくりなどについてのお話いただきました。

「生産」「品質管理」という視点での会議は当市で頻繁に開催されておりますが、「小売」「消費者獲得」という視点での情報共有の場は非常に少ない状況であり、非常に興味深く勉強になる有意義な時間となりました。

改めて、女性の持つ感覚的なおしゃれさ / 思わず手に取りたくなるような商品という感性に重きをおいた商品開発やブランディングプロジェクトを早急に発足すべきであると感じたところです。

言葉では発しているものの、行動にうつせていない茶産地を超えた共闘が、少しずつではありますが始まろうとしている気がします。

その他

大変有難いことに、最近は県内外の茶産地で気合を入れ、能動的に活動をされている茶業関係者のキーパーソンとご挨拶をさせていただく機会が増えております。先日、ある方から知覧茶業関係者へ発せられたフレーズが、今でも強く頭に残っています。

「鹿児島のお茶を代表する知覧茶の人たちが引っ張っていかないでどうするんですか！」
「知覧茶がでていかないと鹿児島他茶産地もやりきれないんですよ！」

冗談半分、本気半分に聞こえたこの言葉は、今まで私がずっと引っかかっていた部分を綺麗に代弁していただいたものでした。

日本一の産地とはなんなのか。
本当に日本一、鹿児島を代表するお茶の看板を背負っている自覚は一人一人にあるのか。

当月は特に厳しい言葉を並べてしまい大変読むに耐えない報告書の内容ではございますが、茶業に携わりまだ素人に近い私が思う、解決すべき重要課題はここにあると感じています。

以上簡単ではございますが、当月の報告といたします。



南九州市
Minamikyushu City